

「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」の修正について

普及委員会

令和4年4月2・3日に行われた剣道中央講習会で、昨年度までの「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」において鏢競り合いの時間が増える傾向にあることからその事を是正するために、今年度香田郡秀全剣連審判委員長から試合審判法と解説が次のように修正されました。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法

3. 「鏢競り合い」解消に至る時間はおよそ「一呼吸」とする。

7. 「鏢競り合い」を解消する場合は双方がバラバラに下がらない。また、双方が徐々に下がるのではなく、正しい「鏢競り合い」から鏢と鏢で競り合う（押し合う）力を利用して一気に下がる。

- ※ 「一呼吸」については運営要領P. 23 倒れた者に対する打突を参考にする
- ※ 正しい鏢競り合いは運営要領P. 10 を参考にする
- ※ 互いの鏢を削るように分かれる⇒ 一気に下がる

感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法運用の質問事項及び解説

(6)相互に分かれようとしている途中で技を出さないに下線部分が加筆されました。

(6) 相互に分かれようとしている途中で技を出さない

相互に分かれようとしている途中で技を出した場合の対処方法やその運用の留意点は？

「鏢競り合い」は鏢と鏢が競り合って最も緊迫した間合いであるので、互いに気を抜かないことが重要である。ただし、「一呼吸」後、相互に「分かれようとしている途中で」に技を出しても有効打突とはしない。明らかに「分かれようと思わせて」技を出した場合は合議の上、反則を適用する。

「つば競り合い」から分かれるまでの過程においての瞬時の引き技は有効打突として認めるが、「相互に分かれようとしているとき」の技なのか「瞬間的な技」なのか微妙な事象が生じた場合は、打った側を反則としないし、有効打突にもしない方が妥当である。合議の上、目的と現象を見極めて判断する。

「つば競り合い」は鏢と鏢が競り合って最も緊迫した間合いであるので、互いに気を抜かないことが重要である。なお「つば競り合い」からの[瞬時の引き技]の時間や機会の捉え方については、木刀による剣道基本技稽古法の「基本4引き技」を参考にしていきたい。